

創立74周年
令和6年度6月号



咲かせよう大正の花

つなげよう大正の未来

台東区立大正幼稚園

HP: <https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1380011>



わくわく どきどきの日々

園長 北村 恵

今の季節は外で過ごすことが気持ちの良い日が多く、雨が降らなければ、園庭は子供たちが夢中になって遊ぶ姿で溢れています。野菜や生き物の成長も目覚しく、その変化に驚かされることがたくさんあります。

4年生のAさんが年長の時にお弁当に持ってきた金柑の種を鉢に埋めました。無事に芽を出しすくすくと育ち、だいぶ大きくなったので、この春に親子で園に来てもらい、いつでも見られるようにと、園の外側の植え込みに植え替えました。その金柑の木は葉が柔らかいからか、毎年たくさんアゲハチョウがやってきて卵を産み付けます。そのままにしておくと、木が丸裸になってしまうので、小さな幼虫になった頃を見計らって飼育ケースに移し、別の大きなミカンの木の葉で育てています。

今年もたくさんの幼虫が見付き育てていたのですが、普段なかなか見ることができない幼虫からさなぎになる瞬間や、さなぎから蝶になる瞬間を映像に収めることができました。(残念ながらどちらも子供のいない時間でした)毎朝、園庭に飼育ケースを出し、成長の様子を保護者の方にも見ていただいています。大きな幼虫になって夢中で葉を食べている様子や蝶になった姿に、びっくりしたり喜んだり。「かわいいね」「すごいね」と、親子で共感する素敵な時間です。降園時にみんなに見守られながら空に飛ばすこともあります。

そんな中、先日驚くようなことがありました。プレリす組(2歳児の未就園児の会)で、青虫や蝶の様子をみてもらい、はらぺこあおむしの製作をしました。帰る時間に、みんなが見ているところで蝶を外に放すと、ひらひらと飛んでターフに止まり一休みしました。「飛んだね」「また来てねー」と子供たちが言っていると、突然に空から凄い勢いで鳥が飛んできて、ぱくっとくちばしでつかむと飛び去って行ったのです。それを見ていた先生も保護者も子供たちもあぜんとして一瞬言葉を失いました。しばらくして、子供たちが「とりさん、ぱくってしたね」「とんでっちゃったね」と言い、保護者の方も「お家に連れて行ったのかな?」「子供にあげるのかもね」と答えていましたが、自然の厳しさを実感した瞬間でもありました。

親子で植えた野菜に花が咲いたことに気付いて報告してくれる4歳児、園庭で見つけたダンゴムシを大事に家に持って帰ってお泊りをしてまた次の日に持ってくる3歳児、学級で飼っている飼育物とは別に自分のペットとしてザリガニを飼う5歳児。

このようにたくさんの生き物や自然と触れ合い、どきどきわくわくの実体験を重ねることで、様々な気付きや発見が生まれ、命の大切さにも気付いていくことを願っています。